

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学だより

Wぶどうの樹



発行者 長崎学院
 企画・編集 総務課企画広報係
 〒851-2196
 長崎市横尾3-15-1
 TEL095-840-2000(代)
 FAX095-840-2001
 kikaku@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

平成二十年度

第八回長崎外国語大学

第五十九回長崎外国語短期大学入学式

日時：平成二十年四月三日(木) 十時より
 場所：本学ホール

新入生を迎え本学ホールにて、入学式が行われた。当日は晴天に恵まれ、清々しい陽光と、白く照らされる満開の桜が、希望に燃える学生を歓迎し、祝福した。

開式後、奏楽者による前奏、出席者全員による讃美歌斉唱、そして小西学院宗教主任による聖書朗読と祈禱が行われた。また学長より新入生に向け式辞が述べられた。式辞の中で学長は、誰にも負けない「語学力」を身につけるとともに、「人間力」を鍛えよと訴えた。特に「自身を良く知ること、自分に隠されている能力を新たに発見すること」、そして「何事にも挑戦してみる勇氣を持つこと」の

重要性について語った。続いて新入生の誓いのことばを大学新入生代表の本山さん、短期大学新入生代表の伊藤さんが述べ、それぞれ本学での学生生活を希望をもって過ごし、充実したものにすると宣言した。讃美歌斉唱と後奏をもつて入学式を終了した。



長崎外国語大学外国語学部 現代英語学科新設

国際コミュニケーション学科との二学科体制へ

長崎外国語大学では、外国語学部新たに「現代英語学科」を設置します。「国際語としての英語」に照準を合わせ、高度な実践的英語力の練磨とグローバル社会における文化的・経済的に多様な可能性やその意義を探究することを目指します。これまでの「国際コミュニ

ケーション学科」にも新たに韓国語コースを設け、現代的ニーズにこたえる二学科体制をとることによって、大学における理念である「語学力」「コミュニケーション能力」「人間力」に向けた教育を、より高い次元で達成するのが目標です。(詳細は次頁)

短期大学の募集停止 について

学長 池田統一

長崎外国語短期大学(英語学科)は次年度から学生募集を停止し、平成二十三年三月をもって短期大学の長い歴史に幕を降ろすことになりました。

短期大学は、前身の長崎外国語学校を母体に昭和二十五年(一九五〇年)に創設され、実に五十八年の歴史と伝統を誇っています。卒業生の数は一人を越え、幾多の有為な人材を世に送り出してきました。

いっているというのが実情です。そういう中で私たちは、わが大学は関西以西では唯一の特色ある外国語専門の短期大学であること、高校サイドや保護者サイドからも一定の強い要望があることを考慮し、何とかこれを維持発展させるべく努力してまいりました。しかし、まことに痛恨の極みですが、その甲斐もなく募集停止を余儀なくされた次第です。

現在在学中の学生にはこれまで以上の充実した教育をほどこし、第五十八期、第五十九期卒業生として、責任をもつて世に送り出す覚悟です。

短期大学の募集停止にとともに、併設の長崎外国語大学に來年度から新たに「現代英語学科」を設け、短期大学の英語教員もスタッフに加わり、現代のニーズにこたえる特色ある学科の構築を目指します。短期大学英語学科の伝統は不滅です。

同窓会は従来どおり大学と短大の合同の同窓会として存続します。卒業生の皆様には今後ともこれまでどおりのご支援をたまり、母校の発展を見守っていただけます。う、お願い申し上げます。

しかし、一方では少子化による十八歳人口の減少、他方では時代の趨勢による四年制大学志向の高まりが原因で、全国的に短期大学の学生確保は困難を極めています。平成十九年度の統計によれば、私立短期大学三六五校中二二五校が定員われに陥っています。この間閉校に至った短期大学も数知れません。

わが短期大学も充実した少人数英語教育や留学・海外研修などを特色として種々努力を重ねてまいりましたが、時代の流れには勝てず、この数年極端な定員割れの状態が続

長崎外国語大学は、2009年から新しく生まれ変わります。

長崎外国語大学 外国語学部 学科名称変更届出申請中

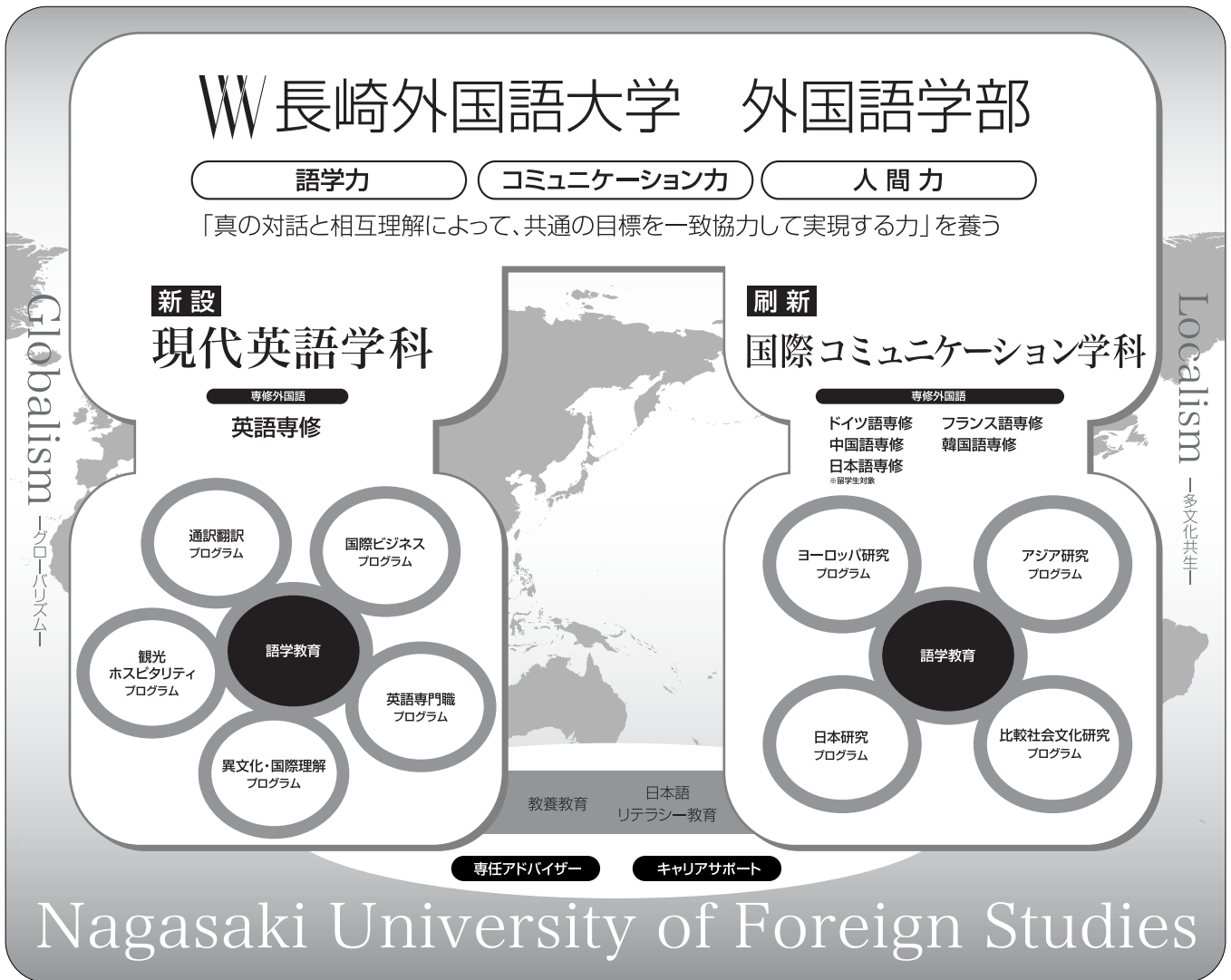
(新設) **現代英語学科**

(刷新) **国際コミュニケーション学科**

かねてより要望が多かった、英語に特化した学科である「現代英語学科」を新設し、リニューアルした「国際コミュニケーション学科」と共に2学科体制に生まれ変わりました。

さらに、外国語を学ぶうえで、また、大学生・社会人として非常に重要な日本語力をブラッシュアップする「日本語リテラシー教育」や「専門教育プログラム」、高度な企画力と実践力を育成する「プロジェクト」、単なる語学留学にとどまらない国内有数の「留学制度」を備えている他、専任のアドバイザーが、学生一人ひとりをサポートする、本当の意味での少人数教育を実現し、世界のさまざまなシーンで通用する語学力と人間力、そして、コミュニケーション能力を育成します。

新学科構想



現代英語学科

21世紀の最も大きな潮流の1つは「グローバリズム」です。世界経済や科学技術、文化において国境は意味を失いつつあります。この潮流の根幹をなすコミュニケーションの手段は「国際語としての英語」です。この学科ではそこに照準を合わせ、高度な実践的英語力の練磨とグローバリズム世界における文化的・経済的な多様な可能性や意義を探求します。

国際コミュニケーション学科

21世紀の最も大きなもう1つの潮流はグローバリズムに対する「ローカリズム」です。この学科では、言語・民族・宗教・社会体制を異にする国々や人々が文化的・政治的な障壁を越えて、どのようにして共存共栄を図るかという「多文化共生」に照準を合わせ、ドイツ、フランスを中心とするヨーロッパ・EU文化圏、中国・韓国を中心とするアジア文化圏の言語と社会、文化を学び、さらに日本語を学ぶ留学生と共同して多文化共生の多様な可能性や意義を探求します。

お知らせとお願い



長崎外国語大学・
長崎外国語短期大学同窓会
会長 吉田 親 生

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃から全国各地で母校の教育・研究の発展のためご協力・ご支援をいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

私は、ここで、全国の同窓生の皆様方に、慎んでお知らせとお願いを申し上げます。

それは、長崎外国語短期大学が、二〇〇九年度から募集停止となることと決定されたことです。近年の短期大学志願者数の全国的な減少傾向の下、受験生の選択傾向が大学又は専門学校の方へ変化しつつあります。こうした厳しい環境の下で、短期大学の入学者数が年々低下しており、入学定員充足率は六十%前後で低迷しています。この二〇〇八年度入学者数は、五十%ギリギリの四十名でありました。これらの状況から、将来における短期大学の入学者確保は厳しく、今般、長崎外国語短期大学の募集停止に踏み切らざるを得なかつたのは、止むを得ないことと言わざるをえません。

先般、同窓会におきましては、理事会、代議員会をそれぞれ開催し、長崎学院におけるご判断を冷静に受け止め、これからの同窓会の運営について協議を行いました。現在の同

窓会員のほとんどは短期大学卒業者ではありませんが、大学が新たに開設されてからは、大学・短期大学が一つの同窓会として運営してまいりました。今後、短期大学がなくなっても、同窓会としては、これまでと同じように全力を上げて大学を支援していくことを確認したところで、六十年にわたり培ってきた短期大学の建学の精神と外国語教育の真髄は、長崎外国語大学に引き継がれ、二〇〇九年度からの学科再編で「現代英語学科」と「国際コミュニケーション学科」として大きく展開されることとなりました。

私たちは、今後は、六十年を超える短期大学の伝統を継承し、新生長崎外国語大学の発展のため、力を尽くしていくことを誓い合いたいと考えております。

同窓生のみさまへ

ご登録の住所・連絡先が変わった方は、同窓会事務局へもご一報くださいますようお願いいたします。

同窓会事務局

電話：〇九五 八四〇 二〇一〇

(ファクシミリも同じ)

E-mail: dosokai@c.nagasaki-gaigo.ac.jp

学園祭(外語祭)期間中にホームカミングデーを企画しています。詳しい日程等はホームページで随時お知らせいたしますので、ぜひお越しください。

企画広報係

電話：〇九五 八四〇 二〇〇〇

FAX：〇九五 八四〇 二〇〇一

E-mail: kikaku@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

二〇〇七年度 長崎外大保護者会活動報告

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学保護者会(略称「長崎外大保護者会」)は、昨年六月二十三日に発足し、早や一年が過ぎようとしております。保護者会は、学生の福利厚生に関する事業を支援し、大学との情報交換、会員相互の親睦を密にして大学・短期大学の発展に寄与することを目的とし、事業計画及び予算案の下に、理事会が中心になって運営されました。

二〇〇七年度においては、理事会は、第一回七月二十八日、第二回十一月三日、第三回二月十六日に、いずれも大学で開催されました。理事会では、設立総会・理事会議事録承認、事業計画の実施(賛助会員加入申込、地区別保護者懇談会の運営)、予算の執行・会計中間報告、学生奨励金制度の運用、保護者会運営に関する全般的な事項、二〇〇八年度定期総会関連事項等について、検討、協議が進められました。

予算面では正会員の会費納入は約六十%にとどまり、引き続き会費納入のお願いを続けていくことが確認されました。賛助会員は、大学・短期大学の教職員五十四名が加入されました。四名の賛助会員から寄付金が寄せられました。

事業の中心は学生支援ですが、九州インカレ出場旅費支援、学内スピーチ大会参加奨励賞支援、学外スピーチコンテスト等参加旅費支援、課外活動団体活動支援、到

達目標達成奨励金授与、会長奨励賞・会長特別奨励賞授与、卒業記念品助成(大学と連携)について実施しました。次年度繰越を除く総収入の八〇%が学生支援に充てられました。他の保護者会の活動としては、地区別保護者懇談会運営支援(五地区)が行われました。

五月三十一日には第一回となる定期総会が開催され、二〇〇七年度の活動報告と二〇〇八年度の事業計画及び予算が決められる運びとなっております。

保護者の皆さんと大学が連携協力して学生支援を行っていくという長崎外大保護者会の目的をご理解いただき、全会員のご協力をお願いして報告とします。

学生支援状況一覧

九州インカレ出場旅費支援四十名(男子ソフトテニス十名、女子同七名、バスケットボール十一名、男子サッカー十九名)、参加奨励費十一名(学内スペイン語スピーチ大会六名、学内日本語スピーチ・暗誦大会五名)、学外スピーチコンテスト等参加支援旅費十一名(九州フランス語七名、全国スペイン語一名、全国ドイツ語三名)、課外活動団体支援費(二十一団体延べ四百十六名)、目標到達達成奨励金百三十一名、会長奨励賞一名について、合計延べ六百十八名に対して百五十五万九千五百円の支援を行っています。これに卒業記念品助成を加えて、保護者会から学生支援を行っております。(報告者：文責：事務局長土井信義)

二〇〇七年度寄付・寄贈者名簿

学校法人長崎学院が行う
教育事業充実のための寄
付者名

役員・教職員(現・元)
宮崎伸生 五十万円

(図書充実)
柴田精三 四十八万円
藤末文夫 四十万円

(二回計)
松本汎人 三十万円
(図書充実)

池田紘一 二十万円
保護者

平川博史 一万円
卒業生

福島彩子 十万円
(敬称略)

物品等寄贈者名

一. 吉田雄之進(前理事)
グランドピアノ一台

二. 昭和三十八年第八回
卒業生他有志(井川清澄、
梅枝ヨネカ、沖崎千蔵、
片山伊勢男、桑原清弘、
中山敏雄、清水富士夫
(昭和三十七年第十二回
卒)、池田紘一(学長)
梅の木五本

三. 同窓会 図書五十冊
相当

(敬称略)

あの人は今

昭和四十一年(一九六七)年度
第十一回卒業生

播重 豊さん
堀口士郎さん

今回は、約四十年前の短期大
学第二部の卒業生で、それぞれ
実業界や公務員の世界で活躍さ
れ、現在もその経験を活かし社
会に寄与し続ける同級生のお二
人にお話を伺った。今回は、長
崎学院土井事務局長が労働省出
身の堀口氏と旧知であったとい
う縁で、鼎談形式の座談会とし、
学生時代の思い出から大学へ向
けた提言まで幅広いお話を伺う
ことができた。そのときの様子
を前後編に分けて紹介したい
(後編は次号掲載します)。
「第一ホテル両国」二十五階
のレストラン「さくら」の一室
で取材しました

前編

【近況】学生時代の思い出
土井 今回はインタビュ
ーをお引き受けただいてあ
りがとございます。

堀口 四十数年前の卒業生
のがんばっている様子が励
みになればということ播
重さんを紹介しました。

土井 播重さんが今の「函館
どつく」に入社されたきつ

けをお教えてください。

播重 三十六年間三菱重工
に勤めていて、その後六十
歳まで工作機械輸出関連の
商社にいました。今の会社
へは、一年ほど就職活動し
て、三菱の先輩に声をかけ
られて入社したという流れ
ですね。現在は、新造船で
も修繕の部門でも好況で、
自適に過ごすつもりがとて
も忙しい毎日です(笑)。

堀口 我々が学んだ二部
(夜間部)では、学生は自分
のスキルアップのために通
っていましたね。三菱や交
通公社、公務員、教職の人
が同級生で、播重さんは入
学するときの学生代表の挨拶
をされました。そして、
我々の時代に校旗作成とい
う出来事もありました(校
旗作成時のエピソードにつ
いては次項を参照)。色んな
友人や異業種の人と知り合
えたのが良かったですね。

播重 本当にそうです。当
時の会社は八時始業で午後
の四時終業でした。それが
終わって、夕飯も食わずに
学校に行った。九時半くら
いまで講義があつて、お腹
が空くことこの上なかつた

です。それが終わって仲
間と喫茶店で「人生とは何
か」なんて話をしてしまし
たよ。みんなで銅座に飲み
に行ったりしてね。この時
の話が非常に面白かつたし、
やっぱりみんな色んな職場
で頑張っているのが良く分
かつた。だからいまだに関
係が続いています。

堀口 定期試験が仕事の忙
しい時期と重なつてね。昼
休み喫茶店で勉強していま
した。ところが自分が試験
で齷齪しているのに播重さ
んやこれも同期の八木さん
はゆつたり構えている。そ
れで経済学の試験で一生懸
命勉強しようやく九十五
点とつただけれど、八木
さんは百点(笑)。これは参
つたと思いました。それが
ら試験後の連休に、播重さ
んと八木さんと今は中華料

理屋をしている吉田さんの
四人で四国一週旅行を計画
しました。

播重 でもね、泊まつたと
ころは全部ユースホステル。
夕食は毎日アジのフライば
っかり(笑)。夕食の予算を、
なるべく安価に抑えないと
いけないという事情ですよ
ね。節約旅行でしたけど、
本当に楽しい旅行でしたよ。

堀口 世界が違ふ人と話す
楽しさや自分を啓発するこ
との喜びがありましたね。
校旗作製運動の原稿の件で
八木さんに確認してもらつ
たら電話があつて、概ねこ
の通りでよいけれど、今も
そのときの仲間と友達づき
あいが続いていると入れて
くれと言われました。校旗
を作製しようと、大卒初任
給二万円の時代に、二部学
生の全員分と一部学生の半
分から七万円集めたら、大
学側が動いてくれた。とも
かくも二部生の連帯の強さ
を感じたし、この運動で二
十周年だという雰囲気にし
たというのはありましたね。

土井 長い歴史の中のそう
いう出来事を、きちんとす
くい上げておきたいですね。

堀口 自分の能力の限界を
感じるときに、外語短大で
学んだ仲間の活躍が耳に



堀口さん(左)と播重さん(右)

入ってくる。ニューヨークの播重さんから年賀状を、八木さんがブラジルにいるときに手紙をもらったりね。長崎という地から、お互いに広い国際的な形でがんばっているのが分かって励みになったということです。

【海外勤務時代（播重さん）】
堀口 播重さんのニューヨーク時代のことを話してよ。

播重 当時一九七〇年頃のニューヨーク勤務は、かなりハードな仕事でした。フアクシミリもなくて、通信手段はテレックス。日本との時差十四時間、退社が深夜になることもしばしばでした。前任者は魚津出身の甲子園に出身した剛健な元高校球児で、それだけ体力が必要だったということですね。その次の要員といって全体に募集がかり、一番に手を挙げた。二十五歳の時でした。僅か一年間で、仕事はハードだったけど若かったこともあって、とても楽しかったですね。造船が好況のときでした。

堀口 一度帰国したときに話したけど、楽しい楽しいと言っていたね。

播重 マンハッタンは小さい島だけど、四十年前にも

う百二十もの日本食屋があった。肉はたくさん食べられるし、ニューヨークにいる二年二ヶ月で十キロも太りました（笑）。

堀口 退職する前もしばらく海外にいたけど、バンコクに半年くらいだったかな。

播重 そこからすぐにクアラ Lumpur に異動しましたよ。退職前十年間は工作

機械の輸出の仕事をしていました。その頃、アジア危機まではアジア経済はともも伸びていて、マレーシア、シンガポールともものすごく機械が売れました。

堀口 仕事の中で、英語でなくて地元の言葉を覚えたりはしなかった？

播重 バンコクに居た当時、私は五十を過ぎていて、も

う覚える気がなかったね（笑）。タイの場合英語をしゃべる人が本場に少なくてね。日本から現場にやってくる人は、二年もすると、英語を使えない分タイ語が上手くなる。まあ、バンコクには半年くらいで、クアラルンプールに結局三年間居ただけで、マレーシアとシンガポールとインドネシアがテリトリーで

した。シンガポールはもちろん一〇〇%英語を話してくれます。でも私が驚いたのはマレーシアで、みんな英語を話してくれました。小学生のときから英語習っている。言葉に関しては教育レベルが高いと思いましたがね。

（次号へ続く）

校旗作製運動の思い出

一九六六年 第二部卒業
岩働省OB 千葉県在住
堀口士郎

堀口士郎

一九六五年（昭和四十年）十二月の校旗制定は、「画期をなす一コマだと思えます。いま、「スリーV」が燦然と輝く校旗は大学のシンボルとなり、大学で学び・巣立っていく学生たちの人生の道しるべとして、その生命力を発揮しているのではないのでしょうか。

校旗作製のドラマで忘れられないのは、卒業後病のために若くしてお亡くなりになった山本さんの情熱です。山本さんは、伊木力町でミカン農家を営みながら、三十才を過ぎて入学された方ですが、茫洋とした包容力でまわりの人を引きつける魅力を持っていま

した。山本さんは自治会役員の藤田さんたちと、校旗作製の必要性を学生たちに呼びかけていました。当初、大学側は消極的な姿勢で、難しい状況がありました。が、二部の自治会総会で「校旗作成推進委員会」を置くことが決定され、私もその一員になりました。住吉電停前の喫茶店や銅座の大衆居酒屋に集まり友情を深めあうなかで、校旗作製の議論を重ねました。そして、新たに自治会長に選任された八木さんを中心に、一部（昼間部）生に校旗作製の意義を呼びかけました。一部の自治会長は私の



高校の同級生で強いリーダーシップを発揮していた中川さんでした。両自治会長の人柄と努力もあり、部を超えて信頼と交流が深まるなかで、校旗作製に向けた機運が高まってきました。また、作製費用の捻出は難しい問題でしたが、目標を十万円に設定、一人七百元の拠出を呼びかけました。当時の大卒初任給が約二万三千元、新聞購読料が一ヶ月五百八十円という時代でした。約七万円の浄財が集まった頃、大学から「大学として作製する」との態度表明があり、私たちはいきなりの表明にびっくりしながらも、集めた浄財は大学側に贈呈しました。大学はあわせて校章と校歌も制定、出来上がった校旗はすばらしいものでした。落ち着いた色彩、「スリーV」の荘厳さ、国際人の育成を

めざす大学にぴったりの「VIA VERITAS VITA」の教えなど、想像をはるかにこえる出来映えに、大きな感動を覚えたものです。

いま思うと、私たちの運動は未熟な若さの発露だったのかもしれない。しかし、二部生の大学を愛するがゆえの情熱が全学生の世論となり、大学を動かしたのだと思います。校旗の作製に関わり、情熱と魅力を持った仲間たちと出会い、信頼と友情を育むことが出来たのは、私の誇りであり大きな財産です。あの時、校旗作成に取り組んだ仲間とは、四十年経った今でも脈々と交遊が続いています。

（この記事は堀口さんによる六十周年記念誌用の原稿をもとに企画広報係が編集して掲載しました）

二〇〇七年度 卒業証書・学位記授与式

二〇〇八年三月十八日、ときつカナリーホールに於いて平成十九年度第四回長崎外国語大学、第五十七回長崎外国語短期大学卒業証書・学位記授与式を挙行いたしました。式では卒業生全員の名前を読み上げ、各コース・クラスの代表に学長から卒業証書・学位記を授与しました。在校生代表の送辞では、学生生活では先輩方を目標として頑張ってきたこと、そして今後

は自分たちが伝統を引き継いでいく決意であることが述べられました。卒業生代表の答辞では、大学四年間あるいは短期大学二年間の大学生活を支えてくれた両親や先生方への感謝の言葉と、本学で培った知識や経験を生かし今後さらに精進していきたいとの抱負が述べられました。卒業



式終了後は場所をベストウエスタンプレミアホテル長崎へ移し、卒業パーティを行いました。パーティでは外大ワインも振る舞われ、フラメンコ部の特別出演で会場が盛り上がりました。また匿名希望の有志から卒業生全員にケークのプレゼントもあり盛り盛りのうちに終了することができました。皆様のご厚情に深く感謝いたしますと共に、卒業生の今後の活躍とご健康をお祈りいたします。
(学生支援室学生係)

中国語コンクール

中国語コースは学外でのスピーチコンテストに積極的に参加して賞を総なめにしていきます。まず、中国語の世界大会の予選である「五星奨全西日本大学生中国語コンテスト」で、福田知世さんが、暗誦二部 第二位副賞 天津師範大学半年留学、福島彩子さんが、スピーチ 第二位 特別賞 日本代表として世界大会出場権を得ました。次に、「長崎純心大学 第六回中国語暗誦コンテスト」で、

初級

優秀賞 大村有香
優良賞 中尾有実子
長崎市長賞 森下美穂
長崎純心大学学長賞 平岡大紀

上級

最優秀賞 西山貴子
優秀賞 新留修一
中国駐長崎総領事賞 釘尾さとみ
と、素晴らしい成績をおさめています。
また、「県中国語コンクール」では、

最優秀賞 新留修一

優秀賞 畠山靖子
特別賞 西山貴子

初級 優秀賞 平岡大紀
という風にこれもまた見事な受賞です。
漢語橋出場



漢語橋というのは中国の世界大会で、いわばオリンピックのようなものです。毎年数十万円で予選が行われ、数十万人の予選参加者から約百人の代表が選ばれ、中国に招かれて本選を争います。二〇〇七年度は本学の福島彩子さんがその中の一人として参加しました。スピーチのみでなく、あらかじめ用意された膨大な中国の各方面にわたるクイズに正答しなければなりません。このクイズ対

聖書雑感 (五)

「兄弟たち、……」(ローマの信徒への手紙一章一三節他) 小西哲郎
「文明は進歩すきた。一九五〇年頃の水準に及ばないか。」鈴木孝夫 慶大名誉教授を囲んでの懇談会(〇四年十月一日、於本学)の席上でなされた同趣旨の述懐が印象的でした。聖書の英語訳について同じような思いを持っていたからです。
例えばこの「兄弟たち」(男性形)というギリシヤ語は、学問的に今もつとも信頼できる英語訳RSV(一九五二年)ではbrethrenですが、その改訂版NRSV(一九八九年)で

はbrothers and sistersに。同様に、世界聖書協会が翻訳・出版したTEV(GNT)初版(一九七六年)でbrothersだったこの語が、その第二版(一九九二年)では何とsistersに替えられました。フェミニズムの影響になされたこれらの改訂は、パウロの呼びかけた対象には女性も含まれていたとの解釈によりますが、翻訳の正確さという点では、これはいわゆる歴史の「逆コース」ではないでしょうか。
改憲論議が近頃また盛んですが、この「法則」が正しいとすると、一九四七年施行の日本国憲法もまだまだ捨てたもんじゃありません。
(学院宗教主任)

二〇〇八年度関西フランコフォニー祭

第四回フランス語弁論大会 毎年、三月二十日はフランコフォニーの日と定められ、世界中でこの日を皮切りに、フェスティバルが開催され、展覧会やフランス語の映画上映会など様々な催しが行われます。大阪では四年前から、関西フランコフォニー祭実行委員会の主催で、オープニングの行事として、フランス語弁論大会が実施されています。本学の学生は、第二回目から参加をしており、第二回、第三回と優勝を勝ち取っています。第四回の今年も、本学から二名の学生が出場しました。その一人、山城知里さんは「駅での出会い」と言うテーマで、留学していたアンジェの小さな駅でたたくさんの人々との出会いと、そこで知り合った友達との現在につながる交流の話をして、見事三位に入賞しました。彼女のレポートによると、このコンクールに参加して、フランス語を思いっきり話す機会



が持てたことが嬉しかったそうです。審査員の先生たちも優しくかつたそうので、質疑応答にも自然に答えることができたそうです。もう一人の出場者荒木裕子さんはツアーコンダクターとして働いた経験を話しましたが、フランコフォニーに関連するテーマを扱ったスピーチの方が内容的に評価されたようです。結果はともかく、コンクールに出場するためには、内容をまとめるだけでなく、練習をする時間も必要ですので、出場することに大きな意義があると思っっています。本学の学生には、今後とも、勇気を出して参加してほしいと思います。
(コース主任 阿南婦代)